

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月14日

事業所名 キッズスクールメグシイ茅原町教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		放デイとの共同空間がありますので、利用の際には声掛けやパーテーションなどで療育環境に配慮しています。
	2	職員の配置数は適切である	○		適切な指導ができるよう職員を配置しています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	体を動かすスペース、落ち着いて過ごすスペースと環境を設定し活動しています。室内はバリアフリーであるが、玄関やトイレには段差があります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日清掃・消毒を行い、清潔にしています。安全点検も行、危険がないか確認をしています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全体ミーティング・モニタリングを通しての意見交換がなされています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		送迎時など保護者へのヒアリングをし、苦情には迅速に対応しています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		結果だけではなく、改善策や将来的なビジョンについても公開するように心がけています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		定期的に顧問医師による評価・指導を受けています。また、ご家族からいただいた意見や評価をもとに業務改善に努めています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内・社外研修でスキルアップの機会を設けています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		計画に客観性を持たせられるよう他教室との意見交換も行っています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	標準化されたアセスメントツールはないので今後の検討課題となります。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		ガイドラインのポイントを把握しながら利用児の個性や特性に合った課題を設定し、支援を行っています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		療育時には支援計画を確認し、適切な支援を行えるよう努めています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		教室内チームの他、他教室とも連携を取り行っています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		スモールステップで、ステップアップを図っています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動においても、各自の特性や個性に寄り添ったサービスを実施しています。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点課題や改善すべき点など
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前には支援の内容の確認を行っています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援後には記録に残し、職員間での共有を徹底しています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援終了後には支援内容を記録し、各自の課題の検証や改善を行っています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的なモニタリングを行い、必要時にはその都度連携を取り計画の見直しを行っています。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		役員と担当者がペアになり少なくとも2名以上の職員で参画しています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		連携を取り、必要に応じ意見交換なども行っています。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	現在利用がありませんが、必要時には連携の取れる体制を整えていきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	現在利用がありませんが、必要時には連携の取れる体制を整えていきます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相互理解するために連携を取り情報共有に努めています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		相互理解するために連携を取り情報共有に努めています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じ、意見交換を行っています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	現在実績はありません。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		研修会への参加はしていますが、今後協議会との連携を行っていきたいです。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時に意見交換を行っています。また、保護者会も定期的に開催しています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		困りごとの相談のほか、家庭内でも取り組める療育のアドバイスも行っています。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		パンフレットやホームページ等で詳細を公開しています。また、変更があった際には速やかに説明を行っています。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者との面談を行い、支援内容の確認・改善をしながら支援計画を作成し	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点課題や改善すべき点など
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		父母どちらかに一方的に肩入れすることのないよう、総合的な情報をもとに客観的な視点で提言しています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者情報交換会を定期的に開催しています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		ご相談があった際には迅速に対応し、適切に対応できるよう職員間でも内容の共有、相談を行っています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		年に数回の会報発行、予定等は毎月の予定表でお伝えしています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		研修会も行い、個人情報の取り扱いには十分に注意しています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		利用児の特性に合ったツールを利用し、意思疎通や情報伝達を行っています。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	現在実績ありません。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	職員間での内容周知はしていますが、保護者様への周知は不十分であるため、今後改善が必要です。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月に一度の防災訓練をしています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者様からの情報に基づき、状況を確認しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者様からの情報に基づき、個別に対応しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を職員で共有し、環境の改善を行っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修会への参加で知識を深め、社内でチームを作り、対応しています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		様々なケースや時代背景に沿ったガイドラインを策定できるようPDCAを繰り返しています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。